

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。いよいよ夏本番。快食、快眠で乗り切りましょう。くれぐれもご自愛ください。

お釈迦様の教えを噛みしめながら、社会や人のあり方を考える「耕平さんかわら版」。今年の二月号に「お釈迦様は、人が生きることには『苦』と向き合うことと教えました」と書いたところ、熱心な読者のおひとりから「大塚さん、では『苦』とは何ですか」と聞かれました。「うーん」と思わず唸ってしまいました。深く、根源的なご質問です。僕はお坊さんでも哲学者でもありませんが、お釈迦様の教えを学んでみます。二月号で、「生・老・病・死」の「四苦」に「愛別離苦」「怨憎会苦」「求不得苦」「五蘊盛苦」の四つを加えて「四苦八苦」とお伝えしました(読み方や意味は二月号をご参照ください)。「四苦八苦」は「仕事が大変で四苦八苦だよ」というように日常会話でも使いますが、仏教には「三苦」という表現もあります。「痛い、何とかしてくれ」という肉体の痛み。頭痛、腹痛、腰痛、いろいろあります。肉体的な痛みの苦しみは「苦苦(くく)」。建物でも美術品でも、形ある物は壊れます。健康な肉体もいつかは朽ち果てます。物質の破壊・消滅の苦しみは「壊苦(えく)」。運動会や遠足の前日、子どもの頃は「照る照る坊主」を作って軒先に吊りました(最近の子どもはどうですかねえ)。「明日は天気になってほしいなあ」と、大人でもゲートボール大会やゴルフの前日には同じ心境になるでしょう。祈ったり、願かけしても、天候は思うようになりません。こうした自然の変化や変遷に対する苦しみを「行苦(ぎょうく)」と言います。

「三苦」の「壊苦」「行苦」の三つで「三苦」。これらに共通するのは「思うようにならない」ということです。「四苦八苦」の「苦」も「思うようにはならない」ことばかり。

「三苦」の「壊苦」「行苦」の三つで「三苦」。これらに共通するのは「思うようにならない」ということです。「四苦八苦」の「苦」も「思うようにはならない」ことばかり。

「三苦」の「壊苦」「行苦」の三つで「三苦」。これらに共通するのは「思うようにならない」ということです。「四苦八苦」の「苦」も「思うようにはならない」ことばかり。

「三苦」の「壊苦」「行苦」の三つで「三苦」。これらに共通するのは「思うようにならない」ということです。「四苦八苦」の「苦」も「思うようにはならない」ことばかり。

「三苦」の「壊苦」「行苦」の三つで「三苦」。これらに共通するのは「思うようにならない」ということです。「四苦八苦」の「苦」も「思うようにはならない」ことばかり。

「三苦」の「壊苦」「行苦」の三つで「三苦」。これらに共通するのは「思うようにならない」ということです。「四苦八苦」の「苦」も「思うようにはならない」ことばかり。

「三苦」の「壊苦」「行苦」の三つで「三苦」。これらに共通するのは「思うようにならない」ということです。「四苦八苦」の「苦」も「思うようにはならない」ことばかり。

「三苦」の「壊苦」「行苦」の三つで「三苦」。これらに共通するのは「思うようにならない」ということです。「四苦八苦」の「苦」も「思うようにはならない」ことばかり。どうやら「四苦八苦」は「苦」の種類、「三苦」は「苦」の本質を表しているようです。「思うようにならないこと」を科学や政策で「何とかできる」と思うことは人間の傲慢というものでしょう。「苦」の本質を意識して行動すれば、争いごとや不安の少ない社会になります。「苦」の本質に対する理解。僕自身の仕事にも活かしていかなければなりません。来月以降ももう少し「苦」について学んでみます。ではまた来月。

※



かわら版執筆者 大塚耕平

日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。

2001年から参議院議員。元内閣府副大臣、元厚生労働副大臣。地元の歴史・文化遺産の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ13年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。

弘法さんかわら版

弘法大師の生涯と覚王山

第1号から第78号は、2008年に大法輪閣から本になって出版されました。

好評発売中

大法輪閣

(仏教書の老舗出版社)

営業部：電話 03-5466-1401

